

いじめを生まないために家庭でできることを取り組みましょう。

平成27年5月

教育の原点は、家庭にある！

「教育の原点は、家庭にある。」家庭の中で様々なコミュニケーションの仕方や体験をして、人間関係の在り方を学んでいきます。

- ①親は子どもにとことん寄り添い、子どもの訴えに耳を傾ける。
- ②しっかりと愛を注ぐ。
- ③善悪の判断をしっかりと教える。

- ①他人の痛みが分かる人になる。
- ②弱いものを助ける勇気などが身に付く。
- ③人間としての大切な基本的人間関係を身に付けることができる。

親は、子どもの持っている「良さ」「可能性」を積極的に見出しその伸長を図るようにしましょう。



望ましい家庭とは？

- 夕食は家族そろって食べましょう。・・・家族の団らんは子どもの心が一番安らぐところです。子どもの成長には欠かせません。
- 他家族との交流、友達との交流を大切にしましょう。子どもも自分なりに他の家の人とのつきあいや友達づきあいの学習をしているのです。しかし、おかしな関係が見えたら、「友達づきあい」のアドバイスをして関係改善の支援をしましょう。
- 家の仕事の分担をして、責任を持たせましょう。子どもも家族の一員です。「手伝い」ではなく、自立への一歩のために「風呂掃除」「皿洗い」など責任を持ってさせることも大切です。
- ◎これらの経験を通して生きる喜びや感動を知らせ、命を大切にする子に育てましょう。

以上のことを「幹」として、次のようなことに気をつけましょう。

1 一人で悩まず、前向きに子育てしよう

最近、親が働きながら子育てをする家庭も増えていますが、ゆっくりと子どもと接する時間が少なくなりがちです。しかし、子を思い、より良い将来に向かって努力する親の姿を、子どもはしっかりと見ています。子どもたちの心にも響いています。

どうか、さまざまな悩みなどは、一人で抱え込まず、親類や友人の協力を得たり、学校、地域の相談窓口や子育てサポーターや子育てネットワークといった、子育てを応援・サポートしてくれるシステムなどを積極的に活用したりしましょう。

2 子どもは親の姿を見て学んでいく

親に感謝し、親を思いやる心は、広く他人を思いやる心の基となる大切なものです。まず親が自らの親である祖父母を大切にしている姿を見せることを心がけましょう。子どもはその姿を見て学んでいくのです。

3 子どもの健やかな成長のために

「早寝、早起き、朝ご飯」が大切！

最近「昼夜逆転」している子が増えています。ゲームや、スマホ等が原因のようです。絶対にダメ！です。また朝食は一日の生活のスタートです。朝食をとることにより身体にエネルギーを補給し、集中力、やる気、体力を発揮し、一日の身体のリズムを整えることができます。

- ①早寝早起きの習慣をつけて、十分な睡眠をとること。
- ②生活リズムを確立すること。
- ③朝食をたべること。

特に、子どものころは食生活を含めた基本的な生活習慣が形成されていく大切な時期です。朝食をしっかりとる習慣を子どものころに身に付けることは、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことにもつながるのです。



4 子どもが愛されていると実感できるコミュニケーションを

人は大人でも子どもでも、愛され理解されたい気持ちがあります。子どもは、理解されなかったり、不満がたまるとキレることもあります。突然子どもがキレた時、本人も親も理由がよく見えず、怒ったり苦しんだりしますが、理由はあるのです。



【大事なこと】

- ①日頃から子どもの話をじっくり聞くこと（「後でね」は×）。
- ②同じ目の高さで考える。
- ③深く関心を持って聞く。

♡子どもは親に愛されている実感を得る。

子どもは愛されていると感じる時、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができます。そして、不必要に攻撃的にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく成長できるのです。

5 良い本との出会い＝良い人との出会い・・・出会いは大事

読書は、想像力や考える習慣を身に付け、豊かな感性や情操、思いやりの心を育むことができます。ですから、テレビやマンガが好きな子にも、本を読む時間をもつように家庭で習慣付けたいものです。

- ・家でも食事の時間のように「読書の時間」を設ける（家読）
- ・親子で図書館に行く。

など親も一緒に本を読む工夫をして、「読書の楽しさ」と出会えるきっかけを作ってみてください。

6 感情にまかせて叱ることとしつけとは違う

しつけは大切ですが、しつけなくてはという気持ちからついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒント

- 「叱られる側」の子ども立場にもなって考えること。
- 「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」
- 「子どもはどう受けとめるだろうか」

まずここから考えてみましょう。子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性もあります。



7 良いところを見つけて褒める

子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にできる力です。

それは植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、その子が大きく育つことを信じて心に豊かな水や栄養を与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、親が子どもの良いところを見出し、褒めることです。叱るべき時は叱り、褒めるべき時はちゃんと褒める。一つ叱ったら三つ褒めるぐらいのバランスを心がけましょう。褒められることで子どもは喜びを感じ、自信や自尊心を育てていくのです。

おわりに

子どものおむつを替えるときだけが子育てではありません。今、成長しつつあるときこそ、子育ての最盛です。子どもに手がかからなくなっても「心くばり」は必要で、それは成人するまで続きます。

バランスのとれた学力・体力・精神力は、バランスのとれた人間形成につながります。どんなに高い学力があっても低い精神力しかなかったら、人間形成上、大きなひずみとなって現れます。その1つが「いじめ問題」です。いじめを生まないために、再度、家庭教育の在り方について考えてみましょう。

また、忘れてはならないものに、中高生の「ネット依存」があります。中高生のネット依存者は50万人を超えるという推計もあります。「家庭でのルールづくり」が重要です。ノーゲーム、ノーテレビの日、月1回の「家庭の日」にはスマホの電源を切って家族で会話をしましょう。

- 参考
- ・平成22年版 文部科学省「家庭教育手帳」
 - ・平成8年鳥栖市教育委員会「愛は心くばり」
 - ・平成27年鳥栖市教育委員会改訂